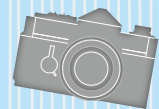


# まちの話題



あなたの周りの身近な出来事や話題をお知らせください。  
問い合わせ 市広報秘書課 ☎ 43・8113



## 環境、経済、人づくりを考える

ふくつ環境シンポジウム2019を開催



▲サウスイーストノルウェー大学のインガン教授(右)と九州工業大学の伊東啓太郎教授(左)

ふくつ環境シンポジウム2019を九州工業大学環境デザイン研究室との共催で1月26日、カメリアホールで開催しました。「誰ひとり置き去りにしない」を基本理念に、国連が2030年までに地球全体で達成すべきとしたSDGs(持続可能な開発目標)につながる事例などの紹介がありました。

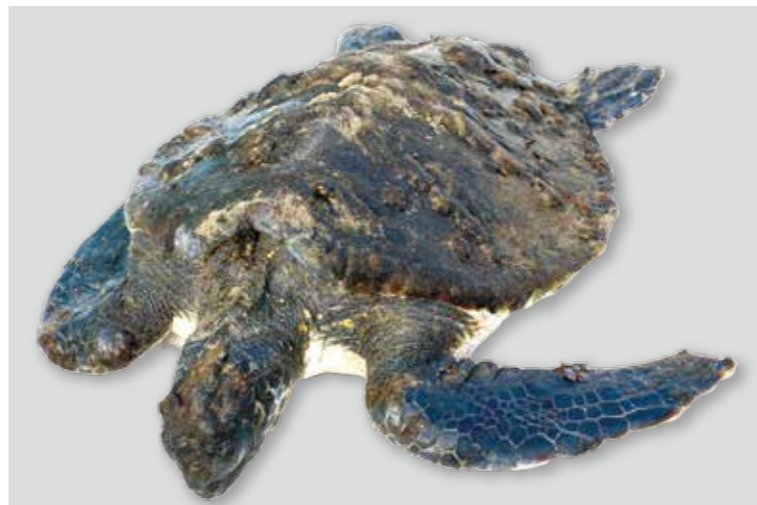
開発途上国でのまちづくりや、徳島県での生物多様性推進事例、証券会社との連携といった新しい取り組み、市内の自然環境の変化、県立水産高校の豊かな海づくりプロジェクトなど、各分野の研究者などが講演。また、サウスイーストノルウェー大学からインガン・フィヨルトフト教授を招き「ノルウェーの自然の中で実践される子どもたちの遊びや学びの大切さ」についての先進的な取り組みの紹介もありました。集まったおよそ200人は、福津の自然環境と経済、人づくりについて考える機会になりました。

## 衰弱したウミガメを市民が発見

アオウミガメが宮地浜に漂着

1月22日、アオウミガメが宮地浜海水浴場に漂着しているのを散歩中の市民が発見しました。市うみがめ課職員はその連絡を受け、現場に急行。「死んでいるようだ」との通報でしたが、かすかに動いている

ため、福岡市のマリンワールド海の中道へ搬送しました。漂着したアオウミガメは甲羅の長さが33・5cm、幅が29・3cm、体重4・2kgと、子どものカメとみられ、かなり衰弱している状況でした。



▲2月13日現在、徐々に快方に向かっているとのこと

マリンワールドの職員は「甲羅にコケが生えている状況から、長い時間泳げず、海面を浮遊していたようだ」と話していました。市内にアオウミガメが生きた状態では平成23年12月以来。昨年1月にはアカウミガメが勝浦海岸に漂着。その後元気になったことから、7月に海へ放しました。

## 日本の絶景に福津が2カ所選ばれる

じゃらんインスタグラムの2018年各月の絶景写真



▲傘が風であおられながら撮影された写真

旅行予約サイト「じゃらん」は、写真共有アプリケーションのインスタグラム上で日本の絶景写真を募集しています。昨年、投稿月ごとに閲覧者の「いいね」数が多かった1位に選ばれたのは、1月はラムミさんが撮影した勝浦海岸、8月はyoshixさんが撮影した宮地嶽神社。各月全12カ所の1位のうち、市内の景色が2カ所も選ばれました。ラムミさんは「虹色の傘を反射させて一度こういう写真を撮ってみたかった」と話してくれました。

## 新年の風物詩

第45回九州地区大学合同寒中水泳大会



▲大会後には砂浜を白くするほど雪が降りました

九州7大学による伝統行事の寒中水泳大会が1月26日、津屋崎海水浴場で行われました。この日は水温8度、気温5度。大学対抗のビーチフラッグの後、太鼓の合図とともに97人が海に向かいました。海では新成人を胴上げするなどして祝福。成人を迎えた九州大学の松田昂大さんは「波が強かったが昨年よりも楽しめた」と話してくれました。

## ミサंगाが福津で熱唱

ミヤジックのプライベート



▲曲を聴いて涙を流す人もいたミサंगाのライブ

毎年7月に宮地嶽神社で開催される、九州最大級のアマチュアミュージシャンによる音楽祭「ミヤジック」。そのプライベートが2月3日、イオンモール福津で行われました。3人組バンドで市親善大使のミサंगाはゲストで出演。「地元なので知っている人もいて恥ずかしい」と照れながらも、リーダーの高尾和行さん(写真左)が作詞を手掛け、認知症の祖母に贈った歌「はじめまして、ばあちゃん」など数曲を披露しました。

## 福津の職人魂を生かして

市立大和保育所の看板を補修



▲部員の作業を楽しそうに応援する園児たち

市商工会青年部は海岸清掃や各中学校での出前授業などをボランティアで行っています。1月8日と2月16日の2日間は、大和保育所の看板を園児たちと一緒に補修しました。古びて塗装が剥がっていた看板を取り外し、やすりをかけ、新しく絵を描きました。部員がサンダーという機械を使うと園児たちが「がんばれ」と応援していました。